

学友会

学友会の活動について

「学友会」は学生の課外活動組織で、学友会長(学長)の下、「体育局」「文化局」「大学祭実行委員会」から構成され、学生により運営されています。体育局、文化局では、各局所属のクラブ・同好会から選出された学生が局長・次長・局員となり、クラブ間の調整や取りまとめ、またイベントの企画や実施を行い、大学祭実行委員会では委員長・副委員長の他、会計や広報など機能別の役割担当が置かれ、学生による大学祭の企画・運営が行われています。学友会組織をまとめ、運営方針の策定や調整をはかる

ために「学友会運営委員会」が置かれています。この委員会は、体育局長・次長、文化局長・次長、大学祭実行委員長・副委員長、各学部学生部の教員から構成され、学生が議長となり、主にクラブ・同好会の新設・改廃・昇降格や学友会予算の運用・執行について協議しています。また、各クラブの戦績報告や、大学祭の企画の精査および実施報告、学友会施設について等、学生の課外活動に係る事項について総合的に議題に取り上げられています。

学友会はSCPと共に学生の代表とも言える組織です。学友会所属団体のみなさんで、学生生活をより良く過ごすための意見や要望がありましたら、各局長や委員長までお寄せください。

■学友会年間行事予定

4月	新入生オリエンテーションにてクラブ紹介(体育局・文化局)
5月	
6月	九十九祭(大学祭実行委員会)
7月	北海道地区大学体育大会(体育局所属クラブ参加)
8月	全日本歯科学生総合体育大会(体育局所属クラブ参加)
9月	
10月	
11月	文化週間(文化局) 球技大会(大学祭実行委員会)
12月	
1月	
2月	
3月	

体育局

体育局を振り返って

体育局長 山田 哲郎(歯学部3年)



体育局の仕事は毎月の体育局の定例会の開催と進行、春にある各団体の1年間の予算をそれぞれの団体の代表者と話し合い、決定する予算面談、その予算の決算を行う決算面談が3月にあります。その他には学友会の各局長と先生方で構成される運営委員会の仕事もありました。

まず、定例会ですが、自分は人前で話すのが苦手なので、毎月の定例会の進行も大変でした。各団体への連絡を伝え、最後に毎月の体育館割を決めて終わります。予算の時期の仕事は特に大変でした。全団体が希望通りの予算というわけにはいかないもので、上手く交渉するのが難しかったです。

局長の仕事に慣れるまでは前の局長にアドバイスをもらいながらという感じで進めていきました。大きい責任の伴う体育局長という仕事でしたが、任期を終えた今振り返ると大変充実した内容の仕事で、得るものは多かったと思います。

最後になりますが活動に協力してくださった前局長や他の執行局員、学生支援課の皆さんには感謝の念でいっぱいです。1年間どうもありがとうございました。

文化局

文化局を振り返って

文化局執行部 倉本 圭輔(看護学科2年)



私は今年度の文化局長代理を務めさせていただきました。文化局は月に1度定例会を開いており、その定例会を通じて各団体の活動が円滑に行えるよう運営しています。また、11月には文化週間という各団体がそれぞれの発表を行う場を設けており、その企画や運営を行い、他にも予算面談や決算面談など、各団体がより良く活動ができるよう私たちが支援しています。

文化局の定例会一つをとっても、文化週間や予算面談などでうまく伝えたいことが伝えられなかったり、戸惑ったりした部分が多々ありましたが、私はこの文化局の活動を通して、人をまとめる難しさや責任の重さなど様々なことを学びました。活動している間は大変だったという思いでしたが、今思い返すと社会に出た時に必要なことを経験できる良い機会だったのだと思っています。

わからないことが多く不慣れなところが多々ありましたが、様々な方に支えていただき、無事1年を終えることができました。特に学生支援課の方々には様々なサポートをしていただき大変お世話になりました。ありがとうございました。

大学祭実行委員会

九十九祭を振り返って

大学祭実行委員長 長谷川 奨忠(歯学部3年)



今回で第35回を迎えた大学祭「九十九祭」は、多くの方々のご協力により、無事に終了することができました。まずはこの場をお借りし、皆様により感謝を申し上げます。九十九祭にご協力いただいた学生、教職員の皆様をはじめ、関係企業の皆様、ご協賛いただいた企業様、そして何より九十九祭にご来場いただいたお客様の皆様、本当に

ありがとうございました。

ここ数年で私たち実行委員会は、委員数の増加、企画・運営、内容の定着、学外企業・団体との交流など、組織として成長することができました。そんな中、今回の大学祭は次の段階への転換期だったのではないかと思います。これまで私たちは、前夜祭の開催及び花火の打ち上げ、屋外でのステージ発表、雨天時の対応など、実行委員会としての真価が問われるテーマに取り組み続けてまいりました。これらにはまだ改善の余地があるものの、今回の大学祭では、ある程度の成果を得ることができたと思います。

しかしその一方で、これまで行ってきたことの限界や改

善すべき点が、顕著に感じられる大学祭でもありました。それらは一概に「良くなかった」わけではありません。「より良くなる」点が九十九祭にはあると、つまり、「九十九祭はこれからまだまだ、楽しい祭りになり得る!」ということです。

現在、実行委員会では、次回の大学祭に向け準備を進めております。これからは一人の委員という立場になりませんが、引き続き「まだまだ伸びしろのある」九十九祭に貢献していきたいと思っております。関係者の皆様には、変わらぬご支援・ご協力をお願いいたします。これからも私たち実行委員会と九十九祭を、どうぞよろしく願いたします。

EDITOR'S NOTE

長く厳しい冬から少しずつですが春を感じられるようになりました。そして旅立ちの時期がやってきました。卒業生の皆さんおめでとうございます。春は若い息吹を感じる季節です。ソチ五輪で一喜一憂した記憶はまだ新しいですが、スノーボードのハーフパイプで中学生を含む若い選手のメダル獲得の活躍に驚き、その一方でレジェンドと呼ばれるベテラン葛西選手の活躍、さらには団体戦でのメダル獲得。ベテランと新人のとてもよいチームワークでの結果です。まだまだ思い起こすと胸が熱くなります。卒業してこれから新しい世界に飛び込んでいく諸君! 不安もあろうかと思いますが、周りには皆さんの先輩がしっかりとサポートしてくれます。先輩から色々な事を吸収してください。安心して良い仕事をたくさんしてください。

(T.E記)

ADVANCE

北海道医療大学広報誌 No.157

STAFF ● 遠藤 泰 派上 尚也 中山 英二 鎌口 有秀
遠藤 紀美恵 志渡 晃一 漆原 宏次 榑原 健一
大塚 裕之 木村 恵 杉原 佳奈 長原 利明
宮崎 隆志 園見 明美 松本 信也

発行日 ● 2014年3月13日

編集・発行 ● 北海道医療大学広報・教育事業部 入試広報課
〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757
☎(0133)22-2113
http://www.hoku-iryu-u.ac.jp

広報誌についてのご意見・ご要望・情報等をお待ちしております。
E-mail:nyushi@hoku-iryu-u.ac.jp

■北海道医療大学の教育理念
生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを本学の教育理念とする。

